

学生企画のボランティア活動は、住友商事・東日本再成ユース
チャレンジプログラムから助成を受けています。

ボラスステ新聞

2015年度
第8号 vol.1

二〇一五年
十二月二四日
発行

これからの活動にどう活かす

10月10～12日 神戸招聘プログラム

神戸招聘プログラムとは、東
日本震災支援の一環として、
宮城県の大学生が神戸に招かれ、
神戸の復興経験を学んだり、現
地の大学生と交流し、意見交換
をしたりする、神戸学院大学主
催の勉強会です。

二泊三日という長い時間をか
けて得たものを、それぞれの活
動場所に持ち帰り、今後に生か
していく。今回、尚綱学院大学
からも参加した学生がいます。

TASKIでは何ができる…？

個人でもできることはある…？
もう一度、考えてみましょう。

また、今回は、お伝えしたい
内容がたくさんあります。第八
号は、紙面をいつもの倍にして、
お届けします！

しょうへい

10月10日～12日の三日間に
かけて、神戸招聘プログラムに
参加してきました。宮城県から
は東北学院大学、東北福祉大学、
石巻専修大学、そして尚綱学院
大学の学生が二名ずつ招かれ、
阪神・淡路大震災の復興や、防
災についてなどを学んできまし
た。

一日目は、神戸港から船に乗
り、講師の方から阪神・淡路大
震災の被害の大きさや、神戸港
がどのような復興をしていった
のかといった、お話をいただき
ました。震災当時は、「フェリー
が避難所として扱われていた」、
「五十五基のクレーンが全てダ
メになってしまった」などのお
話があり、とても興味深かった

です。

二日目は、まず午前中に、各
大学の活動報告会がありました。
私たち尚綱学院大学は、活動目
標である「寄り添い」について
発表しました。仮設住宅で行な
われている、自治会の春・夏祭
りやお茶会の様子、活動の振り
返りをはじめ、寄り添いや、生
活再建の手伝いの理念を、全員
で共有できているのかという課
題についても話してきました。

また、この活動報告会では、
他大学がどのような活動を行っ
ているかを知ることができ、今
後の活動に役立つものを得られ
たと思います。私が特に興味を
持ったのは、東北福祉大学の活
動です。子供を対象とした、防
災の〇×クイズや、減災カルタ
などのゲームを行なう、「楽しみ
ながら防災・減災について学ぶ
」というものでした。

午後からは、人と防災未来セ

ンターに行き、阪神・淡路大震
災当時の様子について、映像で
学びました。とある姉妹の震災
当時の様子を語った映像でした。
避難する時の火災や逃げ惑う
人々、避難所での不自由な生活
についての話もありました。救
援物資の不足や見知らぬ人との
共同生活でのストレス、そして
復興していく神戸の町並みなど
が語られていました。



以前、ボラスステでアロママッサージ講座があり、ラベンダーやオレンジなど自分の好きな精油を混ぜ、オリジナルのオイルを作りました。マッサージの仕方も覚え、すっかりアロマに興味を持ってしまった私は、先日アロマディフューザーを買ってしまいました。(笑)匂いはオレンジグレープフルーツ。リフレッシュ効果があるそうです。しばらく、香りに癒される日が続きそうです。

(表現文化学科3年 渋谷佳代)

編集 後記